



### 新しい職員のご紹介

7月より青山病院に入職致しました福本夕紀子です。  
以前は急性期病院の外来で勤務しておりました。

子供が2人おり、出産の関係で内視鏡室や整形外科、脳外科病棟など様々な部署で勤務してきた経験があります。

まだまだ分からないことが沢山あり、先輩方にはご迷惑をおかけしていますが丁寧な指導をしていただき、少しずつですが看護業務に慣れることが出来ています。



これからも患者様一人ひとりにあった看護が提供できるように励んでいきたいと思っております。  
宜しくお願い致します。



### 医療機器の勉強会

新型コロナウイルスの影響により院内での開催を控えていた勉強会を9月25日に再開しました。

現在、当院で使用をしている医療機器の使用頻度が多い輸液ポンプとそれに類似するシリンジポンプの使用方法についての内容です。

今後輸液ポンプ・シリンジポンプの購入が検討されているので、安全に使用するうえで、再度それぞれの使用方法を周知してもらうため、操作方法・警報の対応についての内容で臨床工学技士が行いました。

新型コロナウイルスがまだまだ心配される中での開催だったため、ソーシャルディスタンスを保ちながら行いました。



臨床工学技士  
細田 一馬

秋の七草

秋の七草は万葉集に収められている山上憶良（やまのうえのおくら）の二首の歌が始まりと言われています。「秋の野に 咲きたる花を 指折りかき数ふれば 七種の花」「萩の花 尾花 葛花 撫子の花 女郎花 また藤袴 朝顔の花」一つ目の歌で「秋の野に咲いている草花を指折り数えると七種類ある」とし、二つ目の歌で具体的な花の名を述べています。その中で「朝顔（あさがお）」については夏の花のイメージが強く、意見が分かれていますが、現在では桔梗が定説となつていきます。植物学者の牧野富太郎博士は、「朝顔の花」について、今で言う「朝顔」が中国から伝わったのは山上憶良より後の時代であることから「朝顔説」を否定し、山上憶良より二百年ほど下つた平安時代に書かれた、日本最古の漢和辞典『新撰字鏡（しんせんじきょう）』の「桔梗」の項で、「阿佐加保・あさがお」と振り仮名が振られていることなどを根拠として「朝顔の花」が「桔梗」であるとしていきます。「春の七草」は「七草がゆ」にして食べるなど、食を楽しむのに対し、「秋の七草」は花を見るだけを楽しむものですが、花を見るだけではなく古来より秋草文として着物の文様や工芸品に重用され、京都・高台寺には桃山時代の雅な秋草文の蒔絵が残されています。ただ、着物の文様は実際の季節よりも早めに用いるため、秋草文は主に夏用の着物や帯に使われる場合が多いようです。秋の七草が有名な社寺もたくさんあります。近辺の野山にも多数自生していますので、今年には人込みを避け静かに秋の風情を楽しんでみるのも良いかもしれません。



### 診療案内

月曜日～金曜日 午前：9時～12時 午後：4時～6時  
土曜日 午前：9時～12時 午後：休診  
休診日：日曜・祝日・年末年始(12月31日～1月3日)・お盆(8月15日)

### 担当医

月曜日	午前：青山	午後：内科（交代制）	木曜日	午前：大村	午後：宮里
火曜日	午前：宮里	午後：大村	金曜日	午前：宮里	
水曜日	午前：大村	午後：卜部・森本 （腎臓内科）	土曜日	午後：井料（脳神経内科）	午前：内科（交代制）

### 季節の風景



爽秋